



板橋区産業振興構想2035

はじめに



板橋区では、平成 28 年 3 月に「板橋区産業振興構想 2025」を策定し、3 期に分けて事業計画を策定・実行しながら、産業振興政策を推進してまいりました。

その間、新型コロナウイルス感染症をはじめ社会情勢の大きな変化により、区内産業を取り巻く環境も厳しい状況が続く中で、緊急経済対策や人材確保・育成支援の強化、デジタル地域通貨「いたばし Pay」による地域経済活性化とキャッシュレス決済の推進など、区内事業者が直面する経営課題に柔軟かつ的確に対応した産業振興施策に取り組んできたところです。

この先目まぐるしく変化する経済環境に適応し、今後も長期的に区内産業が発展し続けられるよう、産業に係る世の潮流を踏まえた、板橋区の産業振興の指針となる「板橋区産業振興構想 2035」を新たに策定しました。

不確実性の時代においては、絶えず「変革」に挑み続ける姿勢が重要であり、同時に、多様な主体が互いの強みを持ち寄り、新たな価値を共に創り、共に分かち合う「価値共創」の発想こそが、これからの地域経済を支える基盤になると確信しております。

こうした思いから、板橋区産業の将来像を「新たな発見に出会える、ブランド創造都市」としました。

板橋区は、都内有数の工業集積地でありながら商業・農業を含む多様な産業が集積し、創造力ある企業や人々が集まる地域であり、大学、研究機関、医療機関なども数多くあります。様々な地域の魅力と資源を最大限に活用し、多様な主体がつながり、共創によって新たな価値を創出していくことで、産業成長を促進し、区民生活の豊かさの向上を実現していきます。

人とまち、文化と産業を「つなげる」、創造都市の実現に向けた産業戦略を踏まえながら、事業者の皆様の更なる成長に向けた挑戦の後押しができるよう、全力で産業施策に取り組んでまいります。

最後に本構想の策定にあたり、多大なるご尽力をいただきました板橋区産業活性化推進会議の委員の皆様をはじめ、様々な形で貴重なご意見をお寄せいただきました多くの皆様に対しまして、心からお礼申し上げます。

令和 8 年 3 月

板橋区 長

坂本 健

目 次

第1章 2035年に向けた産業振興

1 新たな産業振興構想の策定について	3
2 「板橋区産業振興構想 2035」の思いとめざす姿	4
3 板橋区産業の将来像	5
4 人とまち、文化と産業を「つなげる」、創造都市の実現に向けた産業戦略	6
5 将来像達成のための産業振興	14

第2章「板橋区産業振興構想 2035」の推進体制

1 本構想の達成度合いの測定方法	27
2 成果の評価・推進体制	28
コラム：検討会・こどもワークショップの様子	29

参考資料

1 用語説明	34
2 板橋区産業活性化基本条例	37
3 板橋区産業活性化推進会議設置要綱	39
4 委員名簿	41
5 検討経過	43

第1章



2035年に向けた産業振興

- 1 新たな産業振興構想の策定について
- 2 「板橋区産業振興構想 2035」の思いとめざす姿
- 3 板橋区産業の将来像
- 4 人とまち、文化と産業を「つなげる」、創造都市の実現に向けた産業戦略
- 5 将来像達成のための産業振興

1

2035 年に向けた産業振興

2035 年の将来像「新たな発見に出会える、ブランド創造都市」の実現に向けた産業振興に取り組みます

板橋区産業の将来像

区は、新たな出会いを通じて多くのイノベーションが創出されることで、区の産業ブランドを確立し「板橋区産」「板橋区発」が付加価値となって産業が成長を続ける循環が出来る、「新たな発見に出会える、ブランド創造都市」を 2035 年の将来像に掲げ産業振興に取り組みます。

また、ブランド創造都市となり、産業の成長と区民生活の質の向上が循環することをめざします。

そのために、区が産業振興に関わるプレイヤーのハブとなり連携を強化していくと共に、イノベーションを加速する原動力となる「注力分野」を設定します。

将来像達成のための 産業振興

将来像を実現するために、「時代の変化を乗り越える産業基盤の強化」「イノベーションを起点とした成長志向の産業育成」「産業の成長と区民生活の融和」という 3 つの柱を掲げて、人づくりやイノベーションの創出、インナーブランディングや社会実装等の 7 つの施策に基づき 15 の取組に取り組んでいきます。

1 新たな産業振興構想の策定について

(1) 目的

板橋区では前構想に基づき、約10年にわたり様々な産業振興施策を推進してきましたが、達成できていない目標も多く存在します。また、人口減少、地球温暖化等の世界的な気候変動、脱炭素化、ライフスタイルの変化、原料・資材の高騰、地政学リスクの高まり、急速なAI技術の進展等、社会情勢の大きな変化により、区内産業を取り巻く経済環境は先行きの見通しが不透明な状況にあります。

この状況を踏まえ、今後も長期的に区内産業が発展を続けられるよう、区内産業の現状と産業振興に係る世の潮流を踏まえた、板橋区の産業振興の指針となる「板橋区産業振興構想2035」(以下、「本構想」とする)を策定します。

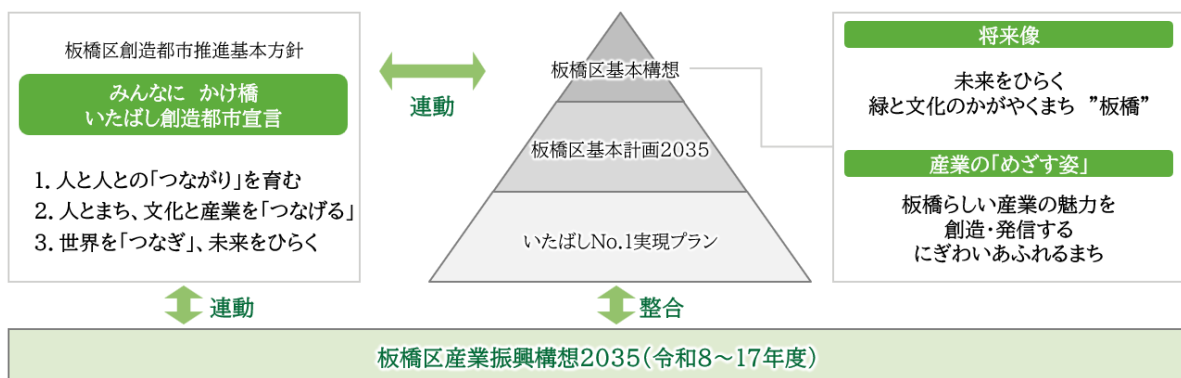
また、各取組に基づく事業計画は本構想では定めず、刻一刻と変化する経済環境に合わせて、産業振興の方針・施策を踏まえながら、その方向性を見据える形で柔軟に事業を実施していきます。

(2) 期間

令和8年度を始期とし、概ね10年間の板橋区全体の将来像を描く板橋区基本構想に合わせ、本構想も令和8年度を初年度とし、令和17年度までの10年を構想期間とします。

(3) 位置づけ

本構想は、板橋区基本構想・板橋区基本計画2035・いたばしNo.1実現プランおよび板橋区創造都市推進基本方針との連携・整合を図り、産業分野の目標達成をめざす個別計画として位置づけます。



2 「板橋区産業振興構想 2035」の思いとめざす姿

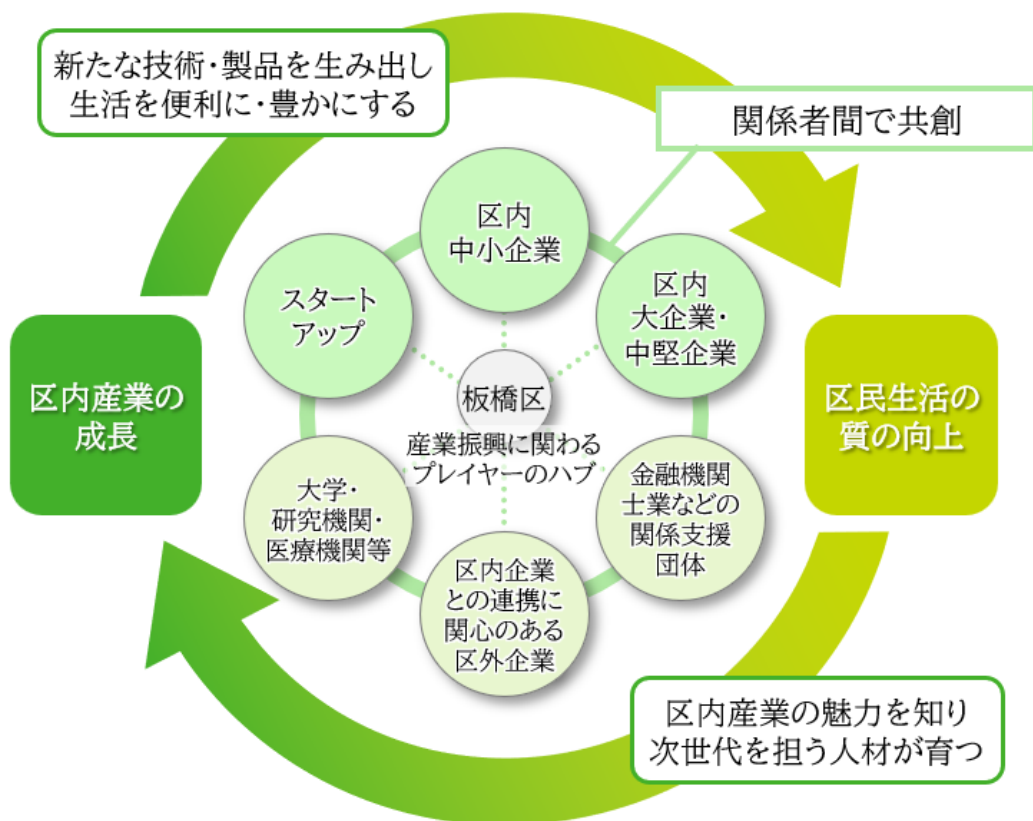
「板橋区産業振興構想2035」は
「変革」「連携」「集積」を
 基本的な視点とし
成長志向の産業育成に取り組んでいきます

区が産業振興に関わるプレイヤーの
 ハブとなり連携を強化することで
共に将来像を実現します

2035年の将来像 新たな発見に出会える、ブランド創造都市

めざす姿

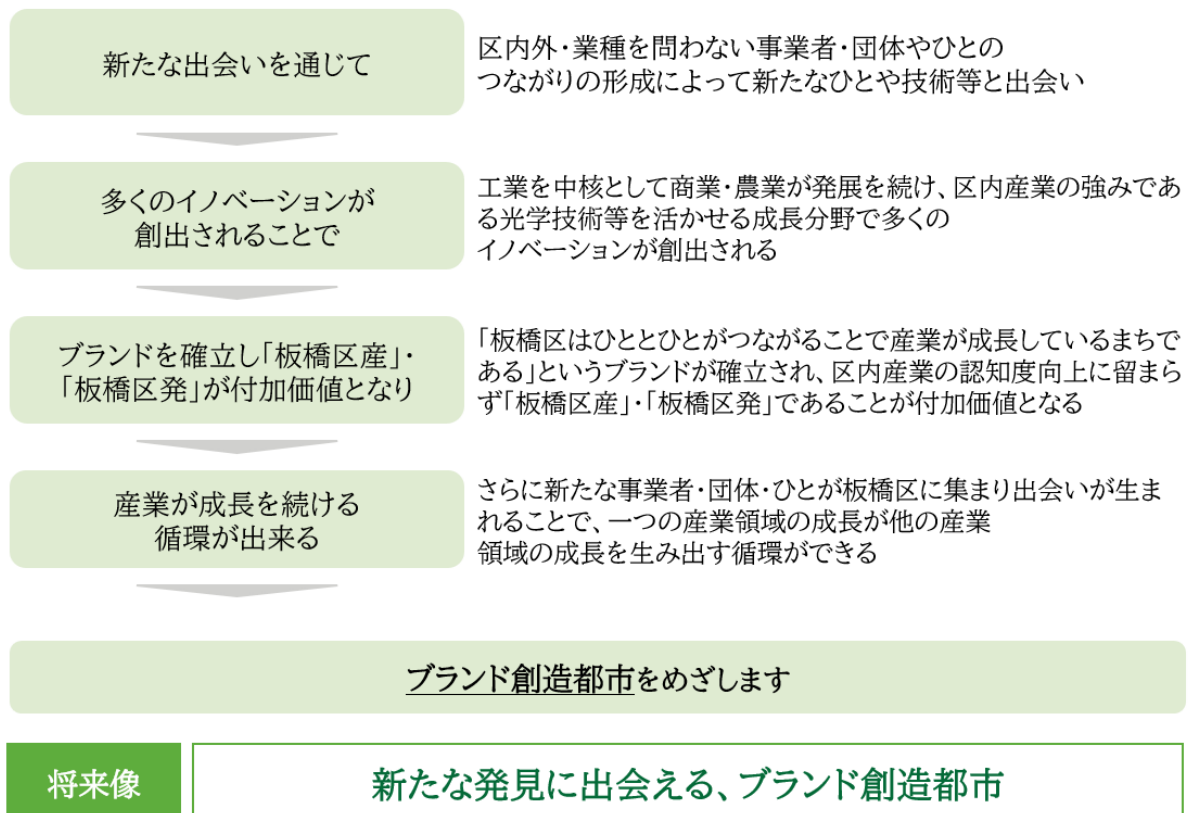
ブランド創造都市となり産業の成長と区民生活の質の向上が循環する



3 板橋区産業の将来像

(1) 板橋区産業の将来像

板橋区は工業を中核としつつ商業・農業も発展してきてそれぞれが板橋区らしい魅力を培っており、強みである光学・精密機器産業は今後さらなる成長が期待できます。また、人口減少社会において産業を発展させていくためには、事業者間での連携を通じて社会課題解決に通じるイノベーションの創出が必要です。これらを踏まえ板橋区は、以下の将来像をめざします。



この将来像を実現するためには、所属組織や地域に関わらず、また、区内事業者だけに限らず、板橋区産業に関わる全てのひとを大事にし、板橋区産業に関わるひとを増やすことが重要と考えます。

また、業種、企業の規模および事業者や支援機関といった属性の垣根を越えた、ひととひとのつながりが必要不可欠です。

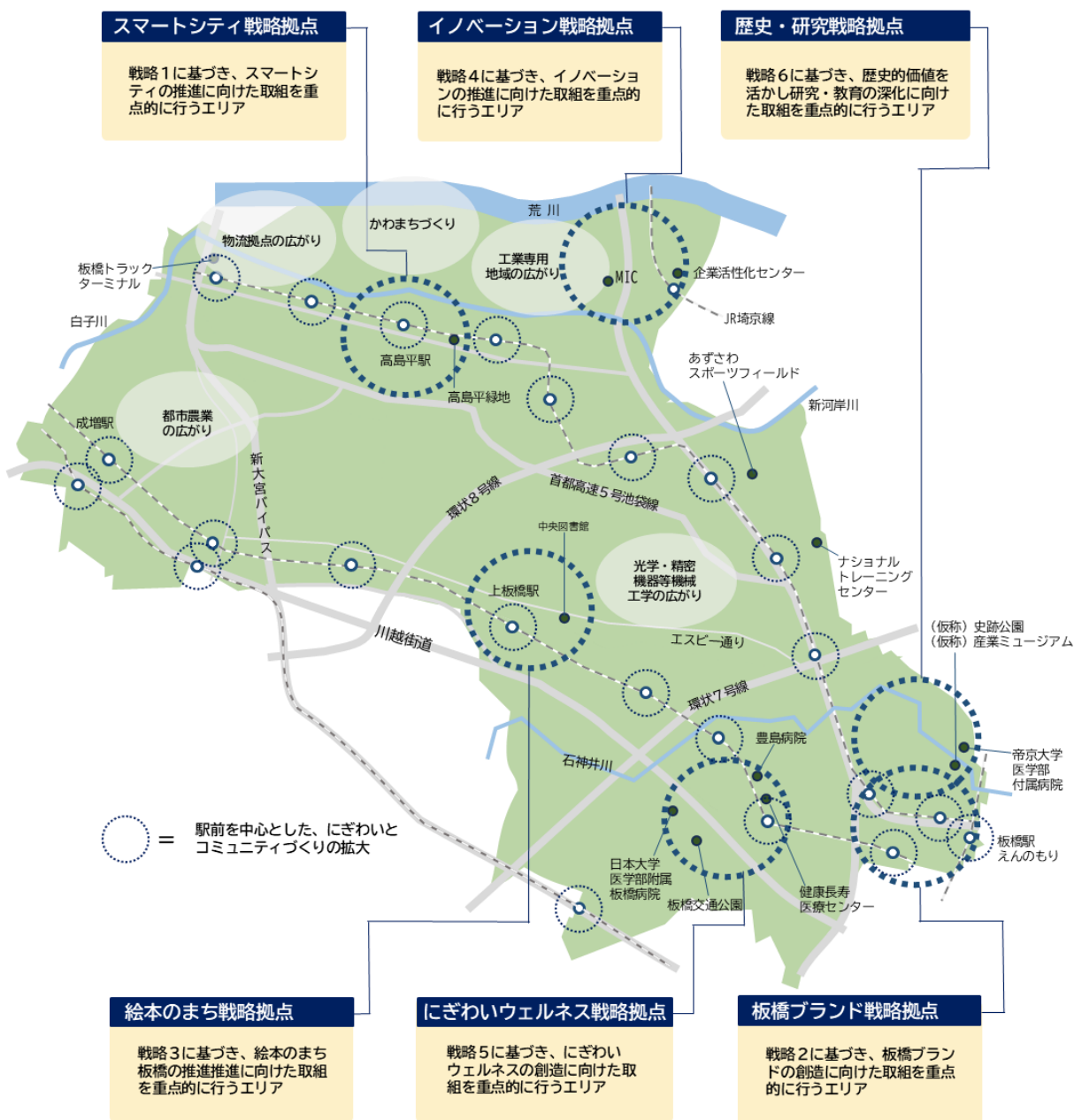
板橋区がこれまで取り組んできた人材確保・育成支援やネットワーク機会の提供等を活かし板橋区産業が発展していくための財産として、「ひと」と「つながり」を重要視して産業振興に取り組みます。

4 人とまち、文化と産業を「つなげる」、 創造都市の実現に向けた産業戦略

住民、NPO、企業、団体など、多様な主体との交流・対話を重ね、地域資源の潜在的な価値を活用しながら、持続可能な地域社会を共に創造します。

※創造都市とは・・・芸術・文化・デザインなどの創造的な活動を、地域の価値創出、課題解決、人と人の交流につなげ、その取組を継続する都市です。

-区産業の特徴と資源-



戦略1

～快適なライフスタイルと
産業の未来を創造する～
板橋区らしいスマートシティの実現

生活と産業が共存する職住近接の都市型産業のまちとして、都市再生と連動し、地域資源を活かした都市課題解決への挑戦を誘致、共創を促進し板橋区らしいスマートシティを実現、快適なライフスタイルと産業の未来を創造します。

戦略2

～世界につながる
板橋ブランドを創造する～
交流・発信の場の充実

区の玄関口となる板橋駅西口周辺を中心に、区内外の人々と区内産業が出会い交流・共創による課題解決をチャレンジできる場、世界につながる発信の場を創造します。

戦略3

～ウェルビーイングの実現を
デザインする～
絵本のまち板橋の推進

ものづくり基盤を軸に、デザインの力を取り入れた絵本のまち板橋の推進に寄与します。人とまち、文化と産業がつながり生まれる創造的活動からにぎわいを創出、豊かな絵本文化に触れ、ウェルビーイングの実現をデザインします。

戦略4

～技術を継承し新たな価値を創造する～
イノベーションの推進

区の地場産業である光学の先端技術を核とし、工業はもとより、その技術を活かした新たな都市農業や、より便利な商店街への価値創造など、最先端のテクノロジーと自然や伝統が融合するイノベーションへとつなげていきます。

戦略5

～人とまちのつながりと
愛着を生み出す～
にぎわい・ウェルネスの創造

再開発や公共施設の更新などを契機とした新しさと伝統の商業・商店街の融合により、歩いて買って楽しみ、交流することからにぎわい・ウェルネスを創造し、つながりと愛着を育みます。

戦略6

～歴史が育むテクノロジーを創造する～
研究・教育の深化

歴史的価値を活かし、産官学による研究開発と研究成果の社会実装を推進、教育機関等との連携による人づくりにより、研究・教育の深化を図ります。

戦略1

～快適なライフスタイルと産業の未来を創造する～

板橋区らしいスマートシティの実現



高島平の街並み

50年・100年先を見据えた持続可能な都市へと転換する次世代のまち

高島平は「スマートエネルギー」、「防災」、「ウェルフェア」、「にぎわい」のテーマで都市づくりを展開し、「多くの人を惹きつけ、時を過ごし、住みたい、働きたいまち」と「暮らし続けたいまち」への転換・強化を図っています。その実現に向け、地域の人々はもとより、事業者、大学・研究機関、アーバンデザインセンター高島平(UDCTak)などの多様な主体が連携し、公園や緑地などの豊かな公共空間、近接するメガソーラーやドローン実証フィールドを併設した大型物流施設などの地域の貴重な資源を活かし、実証実験や社会実装を積極的に誘致・推進し、新技術を活用した都市課題を解決するとともに、新産業の立地を促進します。また、都内外の結節点であり物流施設が集積している強みをさらに伸ばし、区内事業者の競争力を高めます。

新河岸エリアは工業集積地としてのポテンシャルを持つと同時に、「住みやすく働きやすい 魅力あるまち」をめざし、事業者や地元工業団体と住民が共に創る、生活と産業が共存する都市型産業のまちです。区は、多様な主体と連携し地域資源と都市再生を活かした人づくりに貢献していきます。

<関連する施設や資源のキーワード>

都市型産業 職住近接 スマートエネルギー モビリティ 課題解決 実証実験 MFLP 板橋ドローンフィールド
人づくり 工業専用地域 物流拠点 UDCTak ITTA KAWAMACHI

戦略2

～世界につながる板橋ブランドを創造する～

交流・発信の場の充実



区の玄関口となる板橋駅西口「えんのもり」

緑豊かな駅前を起点に食や買い物を楽しみ、文化や産業に触れられる板橋エリア

区の玄関口となる板橋駅西口では、緑豊かな駅前広場を中心とする、交流・発信拠点「えんのもり」をまちづくりで整備し、安全で心地よい「人中心」の駅前空間を創造します。

既存の商店街と再開発による新たな商業施設との相乗効果による、さらなるにぎわいの創出に向けて、地域の商店街や個店と連携したイベント等により食や買い物を楽しみ、歩きたくなるまちをめざします。

また、たとえば「絵本×地場産業」のショールーム、印刷・製本などの区の地場産業と「絵本のまち」を掛け合わせた展示・ワークショップ、「板橋のいっぴん」などの区の産品販売などにより、区民と事業者の交流や創造的活動を創出し、区独自の文化や産業の魅力を世界に向けて発信します。

さらに、区外の人々と区内産業が出会い、それぞれの強みを活かした共創による課題解決、チャレンジができる機会を創出します。共創によって生まれた製品やサービスを発信し、人と人のつながりを生む循環をつくります。

<関連する施設や資源のキーワード>

創造・交流拠点「えんのもり」 世界に発信 文化 交流 商店街 いたばし産業見本市 共創 クリエイター
板橋ブランド 多様な主体 出会う場

戦略3

～ウェルビーイングの実現をデザインする～

絵本のまち板橋の推進



絵本のまち板橋プロジェクト

印刷・同関連業の集積地から「絵本のまち板橋」のさらなるブランド創造

戦後、志村エリアを中心に印刷・製本関連業が集積し、区の製造品出荷額等は全国トップクラスとなっています。美術館とイタリア・ボローニャ市との交流、そして多数の海外絵本を所蔵する中央図書館(いたばしボローニャ絵本館)という資源を活かし、持続可能な地域発展をめざして「絵本のまち板橋」を区のブランドとして展開・推進しています。

区は印刷・製本などの地場産業の伝統を守りつつ新技術やソリューションビジネスへの挑戦を後押しするとともに、次世代クリエイターが育つ環境整備と支援策を充実させます。

『絵本のまち板橋』プロジェクトでは、ボローニャ国際絵本原画展に合わせて『いたばし絵本フェスタ』を同時多発的に開催し、区内各所で絵本関連企画を展開します。統一フラッグやステッカーで街を彩り、商店街や個店と連携して絵本の世界観を継続的に発信します。さらに、絵本ライセンスを活用した商品開発支援などにより、商業活性化と産業の創造的なにぎわい創出を目指します。印刷・製本を軸に、デザインやデジタルコンテンツなど多様な産業が連携し、創造的な活動のにぎわいを産業面からも促進します。

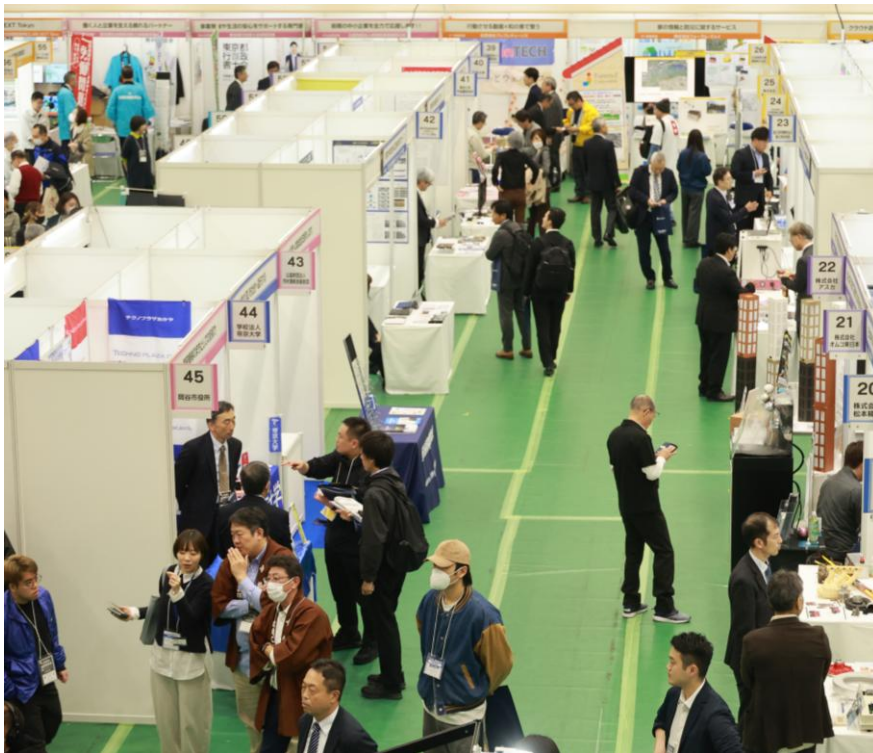
<関連する施設や資源のキーワード>

いたばし絵本フェスタ クリエイター 絵本のまちひろば 絵本さんぽ 商店街 上板橋駅 いたばし Pay
中央図書館 いたばしボローニャ絵本館 美術館

戦略4

～技術を継承し新たな価値を創造する～

イノベーションの推進



板橋製品技術大賞
ITABASHI PRODUCT TECHNOLOGY



いたばし
人と未来を創る会社賞

いたばし産業見本市

伝統ある高いものづくり技術を継承した新たな価値を創造するイノベーション推進

戦前から多くの光学関連企業が集積し、発展した光学・精密機器産業は、区におけるものづくり産業の礎のひとつとなっています。光学・精密機器は、半導体やロボット、ヘルスケア、宇宙、ドローンなどの成長市場において必要な基盤技術であり、今後も大きな成長が見込まれます。

板橋ならではのイノベーションの重要要素として、伝統ある高い光学技術をイノベーションの強みとして打ち出し区内外に発信することで、産学官などの様々なプレイヤーが交わる機会を創出、共創を生み出し、新たな価値を創造します。

イノベーションの主体として、製造事業者はもとより、クリエイターや商店街、農業人材といった多様な主体を戦略的に巻き込み、対話する場づくりを行います。たとえば、クリエイターと学生によるデザイン力を活かしたものづくりや、商店街での配送 DX、区内農地での収穫物とカフェとの商品開発や、気候変動等に対応した農業技術の活用など、最先端のテクノロジーと自然や伝統が融合するイノベーションを推進します。

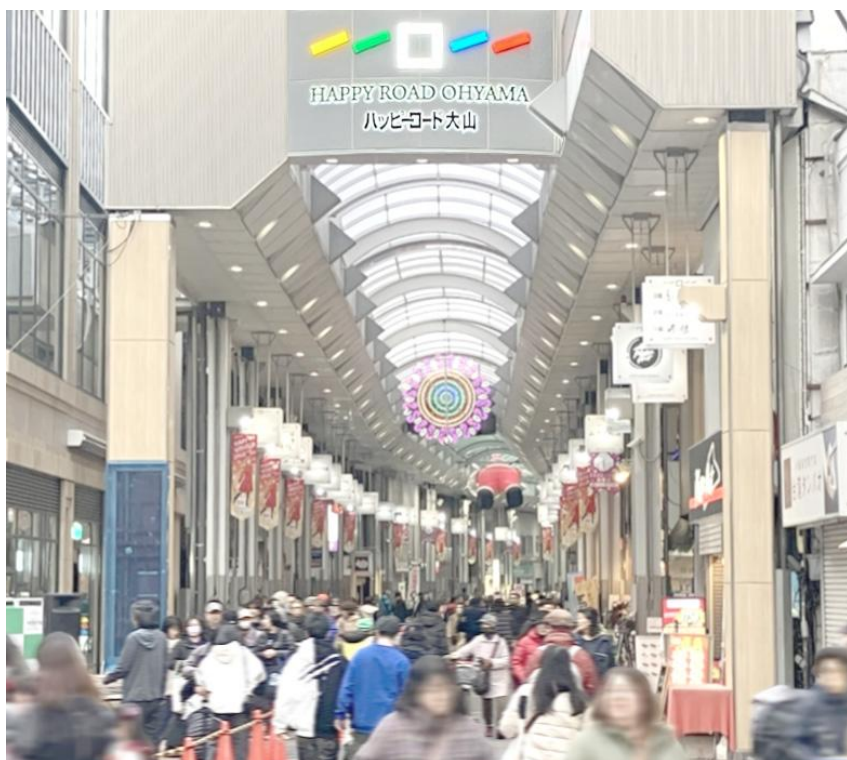
<関連する施設や資源のキーワード>

光学・精密機器産業 共創 板橋産業ブランド 先端技術と伝統技術の融合 アートとものづくりの融合
製品技術大賞 医工連携 いたばし人と未来を創る会社賞 いたばし未来の発明王コンテスト 住工調和

戦略5

～人とまちのつながりと愛着を生み出す～

にぎわい・ウェルネスの創造



ハッピーロード大山商店街



いた Pay 健幸ポイント



板橋のいっぴん

利便性に優れ誰もが暮らしやすく、にぎわいに満ちた安心安全なまちへ

区では、鉄道立体化や交通結節点機能の強化により、街中の回遊性を高め、駅と商店街、商業施設や公共施設が自然に結びつく魅力的な交流空間の創出をめざしています。こうしたインフラ整備により、歩いて訪れたいくなるウォークラブルなまちを実現、買い物や食事、散策が一体となった、人とまちのつながりと愛着を生み出す、にぎわいの場を創出します。

商店街と個店の連携促進や、区の食のブランド「板橋のいっぴん」を生むコラボレーションの場づくり、魅力ある個店の事業承継支援など、生活の基本である「食」を楽しむ取組を促進します。

大山周辺では、新住民と既住民の交流を促し、にぎわい創出と新たな公共空間活用を検討しています。これら多様な主体が協働するにぎわい創出を支援し、他エリアへの波及も図ります。

さらに、豊富なものづくり企業の基盤と、東京都健康長寿医療センターなど複数の医療機関との連携を強化し、医工連携による研究成果の社会実装や医療・健康産業の育成の充実を図ります。製造技術と医療・健康知見が交差することで、新たな産業が誕生し、区内の経済基盤と住民の生活の質を同時に高めることが期待されます。

<関連する施設や資源のキーワード>

交流 暮らしやすい 食を楽しむ 商店街 心身の健康 板橋農業 緑地 板橋交通公園 板橋のいっぴん
あずさスポーツフィールド ナショナルトレーニングセンター 医療機関 医工連携

戦略6

～歴史が育むテクノロジーを創造する～

研究・教育の深化



板橋区史跡公園（仮称）イメージパース

歴史的研究開発拠点から未来を創る研究開発へとつながる加賀エリア

区では、都内初となる近代化・産業遺産を保存活用した「板橋区史跡公園（仮称）」を、令和11年度のグランドオープンをめざし整備しています。その整備予定地である国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」の石神井川北岸の建造物は、戦後に理化学研究所板橋分所として使用され、日本の科学技術の発展に貢献した研究者たちの足跡が残る貴重な場所です。

その歴史的価値を活かし、当地を「（仮称）産業ミュージアム」として整備し、「加賀の歴史が紡ぐ、創造と知の起点」をコンセプトとして、板橋産業ブランドを向上させ、歴史・文化の発信や、区産業と関連性が高い理工系機関との連携強化等により、理系人材やものづくり人材といった人づくりを推進します。

具体的には、産官学連携による研究促進や研究成果の社会実装に向けた支援のほか、近隣教育機関と連携し、加賀ブランドの創出や歴史的文脈を活かしたプログラムを展開し、最先端テクノロジーを創造する研究・教育の深化を図ります。

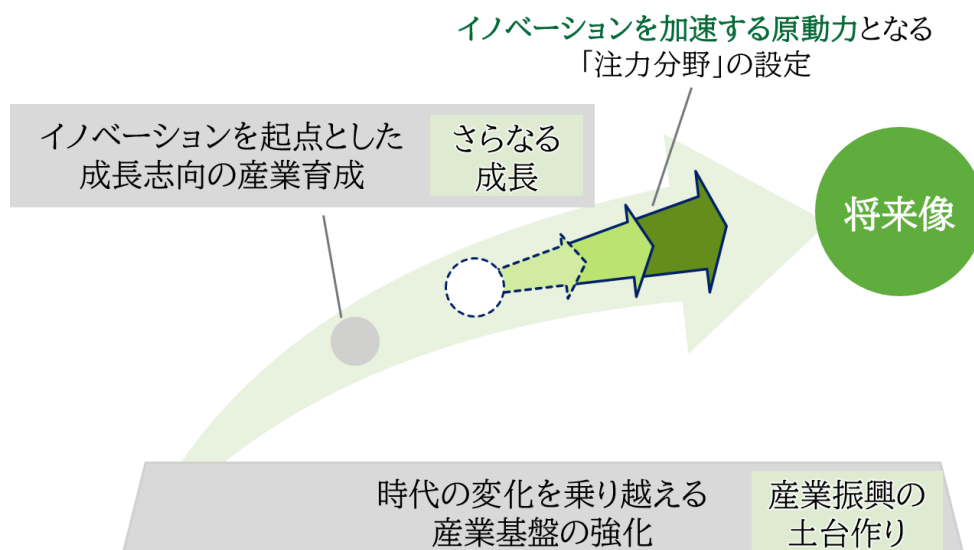
<関連する施設や資源のキーワード>

史跡公園（仮称）（仮称）産業ミュージアム 教育 歴史的研究 産官学連携 共創
研究成果の社会実装 いたばし産業見本市 理系人材 ものづくり人材 人づくり

5 将来像達成のための産業振興

(1) 将来像実現に向けた方向性

将来像を実現するため、まず土台づくりとして「時代の変化を乗り越える産業基盤の強化」を行い、さらなる成長志向の産業育成のため、板橋区独自のイノベーションを加速させます。



(2) 「注力分野」の設定

さらに、戦略的なイノベーション創出を行うため、板橋区では4つの観点(①工・商・農が参入・連携できる産業領域②今後市場規模の成長が見込まれる産業領域③光学・精密機器産業の強みが活かせる産業領域④板橋区の地域特性を活かせる産業領域)をもとに「注力分野」を定めます。

注力分野は時代の潮流に合わせ適切に更新し、本分野を原動力としてイノベーション・エコシステムの拡大を図るアクションを実施していきます。たとえば、クリエイティブ産業、モビリティ・ドローン、AI・デジタル、ロボティクス、健康・医療産業などを想定しています。

(3) 7つの施策

将来像を実現するために3つの柱を掲げて7つの施策を実行していきます

<p>柱 1</p> <p>次代の変化を乗り越える 産業基盤の強化</p>	<p>施策 1</p> <p>産業連携体制の充実</p> <p>区内産業を取り巻く様々な関係者と課題を共有し、施策に反映します</p> <p>施策 2</p> <p>次代を担う人づくり</p> <p>区内事業者や商店街、農分野における人づくりを支援します</p>
<p>柱 2</p> <p>イノベーションを起点とした 成長志向の産業育成</p>	<p>施策 3</p> <p>時代に合わせたトランスフォーメーション支援</p> <p>DXやGX対応など時代に合わせた変化を実現する後押しをします</p> <p>施策 4</p> <p>多様な主体の共創によるイノベーション創出</p> <p>商工農の交流とそれぞれの強みを活かした連携による共創を促進します</p> <p>施策 5</p> <p>板橋産業ブランドの発信強化</p> <p>「光学の板橋」や「絵本のまち」を軸に付加価値を高めた板橋産業ブランドの発信を強化します</p>
<p>柱 3</p> <p>産業の成長と区民生活の融和</p>	<p>施策 6</p> <p>子どもや区民への板橋産業ブランドの浸透</p> <p>「自分たちの住む板橋の産業」を感じ、シビックプライドの醸成を図ります</p> <p>施策 7</p> <p>社会実装を通じた体感機会の創出</p> <p>新しい技術やサービスが区内で社会実装し、区民生活の向上につなげます</p>

施策1 産業連携体制の充実

関連する取組

- 取組1 産業振興施策の推進体制の構築
- 取組2 包括的な伴走支援体制の強化

ねらい

区内産業の課題を俯瞰し、産業振興施策を連動させて成果を最大化させます。

行政・大学・医療機関・金融機関などの支援団体と、中小企業やスタートアップ、大企業・中堅企業などの事業者が、将来像に共感しながら主体的に連携できる仕組みを整えます。課題と産業トレンドを踏まえ、必要な取組の設計・連携・効果測定を迅速に行い、産業振興施策を柔軟に見直します。

また、様々な支援機関の施策を有機的に結びつけ、区内外のパートナーと連携して、事業継続だけでなく成長支援までカバーする包括的なサポート体制を構築します。

施策の方向性

変化する区内産業の課題を面的に把握し、産官学金と区内の専門人材が一体となって各取組を連動させながら、より一層幅広い区内事業者の経営基盤の維持を支援します。

主な事業の方向性

- オールインワン窓口の整備
- (仮称)産業振興施策 推進検討会の開催
- 産業振興施策の有効性を図る調査の実施
- 企業サポートコーディネーターによる伴走支援



多様な主体で考えるこれからの産業振興

施策2 次代を担う人づくり

関連する取組

取組3 多様な人材の確保・定着支援

取組4 現場のリーダーとなる中核人材の育成支援

ねらい

区内事業者の人材不足を解消し、事業者や商店街、農分野において、性別・年齢を問わず意欲ある人が活躍できる環境を整えます。

人口減少・高齢化で労働力確保が困難になり、従来の採用手法だけでは限界があります。板橋区は居住人口が多いという強みを活かし、これまで採用しにくかった多様な人材(若手・地域住民・女性・高齢者・障がい者・外国人)の募集・定着を支援します。さらに、産業全体で適材適所のマッチングを促進し、雇用環境の改善策を提供します。

さらに新規事業やイノベーション創出に挑む実践的な機会を提供し、現場で事業を牽引できるリーダーの育成を支援するなど、性別・年齢に関係なく、意欲ある人材がスキルを伸ばし、継続的に増えていく体制を構築します。

施策の方向性

急速に変化する経済情勢に対し、事業者の成長に欠かすことのできない多様な人材と、現場のリーダーとなる中核人材の確保・育成を支援します。

主な事業の方向性

- 企業 PR 力向上支援と多様な人材と出会う場の創出
- 地域の学生などを巻き込んだ商店街の担い手づくり
- 農業人材の育成・活躍の場の整備
- 表彰制度の実施(いたばし人と未来を創る会社賞など)



いたばし人と未来を創る会社賞の表彰



農業人材の活躍の場を創出

施策3 時代に合わせたトランスフォーメーション支援

関連する取組 取組5 産業の潮流を捉えた事業継続・事業承継・新規創業支援
取組6 事業者の成長を加速させる業態転換・事業拡大支援

ねらい 技術やノウハウを次世代に継承しつつ、創業者を増やし、最新の産業潮流に対応できる環境を整えることで、区内産業の競争力と持続性を高めます。

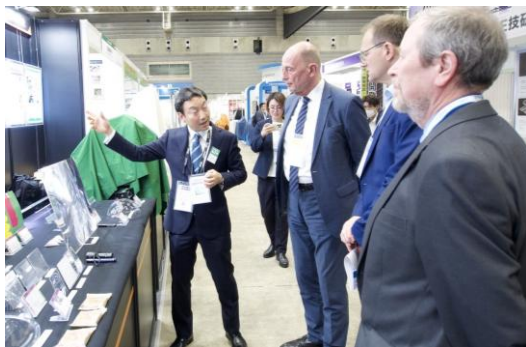
人口減少・高齢化が進み、後継者不足や廃業が全国的な課題となっています。また、板橋区は創業率が都平均を下回っており、新規創業の後押しが必要です。そこで、事業承継につながる情報の把握・連携の促進や新規創業の活性化につながる支援、事業継続に必須な要素となるAI・DX・カーボンニュートラルといった産業トレンドへの対応をスピード感をもって支援します。

また、伝統を守りこれまでの技術を活かした、新技術の開発やソリューションビジネスへの転換・拡大などの変革を支援します。

施策の方向性 新たな人材や技術等をフル活用して区内産業の維持に必要な競争力の向上を図り、さらに業態転換や事業拡大を後押しすることで成長意欲に応じた事業者の成長を加速させます。

主な事業の方向性

- 業態転換・事業拡大の促進
- 印刷・製本同関連業と「絵本のまち板橋」プロジェクトの連動
- いたばし Pay の新たな活用による集客・コミュニティづくり
- DX・GX 推進に向けた取組
- 事業承継と創業支援



「光学の板橋」をさらなる成長へ



いたばし Pay



絵本のまち板橋

施策4 多様な主体の共創によるイノベーション創出

- 関連する取組 取組7 イノベーション創出をリードするスタートアップの育成
 取組8 多領域での連続したイノベーション創出支援

ねらい 区の注力分野を核に、スタートアップを育て、産官学金が連携したエコシステムを構築し持続的なイノベーション創出を促進します。

区内事業者や商店街、農の発展のためには、共創とイノベーションが生まれる多様な主体が出会える場や機会が必要です。区では、イノベーション創出をリードする存在として、スタートアップの持つ革新的でクリエイティブなアイデアを重視します。都心へのアクセスも良く、都心に比べ地価が安いこと、資源や技術力の高い事業者が多く集積していることなどの様々な資源を活かし、スタートアップを誘致するとともに、光学技術を中心とした区内事業者の高い技術力を活かし、多領域での連続したイノベーション創出支援による産業競争力の向上を図ります。

施策の方向性 区内の産業競争力を高めていくため、スタートアップの確保・育成、商店街や農にかかわる人材、大学や研究機関、区内外の事業者を含め、イノベーション・エコシステムを形成しイノベーション創出を促進していきます。

- 主な事業の方向性 ○商店街とクリエイター・ものづくり企業がつながる共創イベント
 ○光学・精密機器が誇る技術力を活用したイノベーション創出
 ○農業と工業の連携による都市農業への挑戦を後押し
 ○都市再生と連動した実証実験の後押し
 ○知財戦略やアクセラレーション等のスタートアップへの伴走支援



交流発信の拠点「えんのもり」



都市再生と連動した実証実験の推進

施策5 板橋産業ブランドの発信強化

関連する取組	取組9 付加価値の高い板橋産業ブランドの構築
	取組10 イノベーション・エコシステムの形成・拡大につながる産業情報の発信

ねらい 「板橋区産・板橋区発」をブランド化し、販売拡大と新商品の開発を促進します。

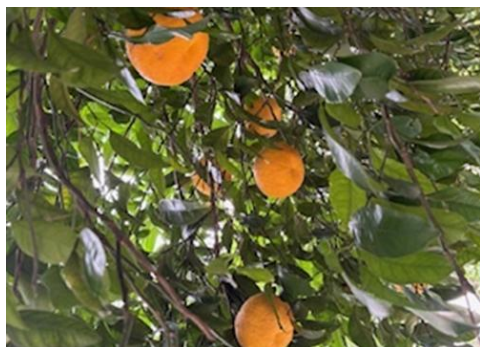
板橋のものづくり技術や製品・商品と、クリエイターの創造性を活かすことなどにより、区全体の“板橋産業ブランド”を築くことが、付加価値向上の鍵となります。そこで、各業種における固有の産業ブランドの価値を高めるとともに、区産業ブランドの整理・確立を行います。

さらに、区内外の企業や団体、自治体に対し、区内に協業・共創の機会や新規ビジネスのチャンスがあることを広く発信します。

施策の方向性 板橋産業ブランドの整理・確立を行うとともに、区内産業の高い技術力と成長可能性を区内外に訴求し、新しいイノベーションを起こそうとする意欲のある事業者や団体を区外から誘引していきます。

主な事業の方向性

- 「光学の板橋」を軸とした国内外の広域ネットワークの強化
- 区内での収穫物を活用した板橋のブランド製品の創出支援
- ものづくりとアートの融合促進
- 板橋農業の魅力発信
- 区外専門展示会への出展支援



区内収穫物を活用したブランド製品創出へ



「ものづくり×アート」によるブランド価値向上

施策6 子どもや区民への板橋産業ブランドの浸透

- 関連する取組
- 取組1 1 区民が区内産業に共感する体験機会の創出
 - 取組1 2 将来の区内産業を担う子ども・学生を育てる次世代教育

ねらい

子どもや区民が産業に興味を持つきっかけをつくり、産業ブランドを浸透させることで「自分たちの住む板橋の産業」を感じてもらい、板橋産業への参加意識と行動を促します。

板橋区は工業・商業・農業と多様な産業基盤を持つものの、住民の入れ替わりや産業に触れる機会の減少により、特に転入者や子どもたちの産業理解が薄れています。一方、区内企業の高い技術力や地域資源が豊富な環境は、産業への誇りや関心を育む土壌となります。

施策の方向性

生活と産業の接点を増やし、子ども・学生に「板橋産業への誇り」と「将来への可能性」を実感させ、次世代が自ら産業振興に関わる土壌を築き、未来の区産業を担う人材を育てます。

- 主な事業の方向性
- まちづくりと連動した産業の発展
 - 企業と連携した、工場見学やものづくり体験機会を創出
 - 生活に潤いをもたらす区内農業への共感を生む魅力発信
 - 区内教育機関との連携による産業理解の促進



板橋農業の魅力発信



教育機関と連携した区産業への理解促進

施策7 社会実装を通じた体感機会の創出

- 関連する取組
- 取組13 イノベーションを高速化するための社会実証・実装フィールドの整備
 - 取組14 事業者と区民に利益をもたらす社会実装の仕組みの構築

ねらい

実証から実装までをスムーズに行えるフィールドを区内に整備し、技術の社会実装を加速させます。これにより新産業の創出と企業の集積を促し、区民の生活向上にもつなげます。

板橋区では再開発が進み、実証・実装の場を作りやすい環境が整っています。新しい製品やサービスを実際に暮らして使えるようにする「社会実装」の拠点を増やすことでイノベーションの事業化を加速させます。

施策の方向性

社会実証から社会実装を一貫して区内で行える環境を整え、イノベーション創出のサイクルを加速させることで、技術が区内に根付き、企業・産業が成長し、区民生活の質の向上を連動させます。

主な事業の方向性

○実証フィールドの整備と多様な社会実装プログラムの構築

新たに整備される板橋交通公園や高島平のまちづくりなどにおける新たなモビリティの導入や、舟渡にある23区内では希少なドローンフィールドを活用した実証誘致、区内全域に広がる商店街や新たな緑地などを活用した区内への新技術の実装を支援します。



MFLP 板橋ドローンフィールド



新たに整備される緑道など

施策を横断する取組

関連する取組 取組15 戦略的な産業支援施設の整備と工業専用地域の機能維持

ねらい 区の貴重な資源である工業専用地域の基盤を維持しつつ、既存の産業支援施設や区内の創造拠点をイノベーションが循環するハブに変え、地域経済の拡大をめざします。

施策の方向性 板橋区はものづくり研究開発連携センターや企業活性化センター等の拠点を有していますが、7つの施策を進めるには、既存施設に新たな機能を整備し、未利用の事業者も利用しやすい仕組みが必要です。また操業環境に恵まれる工業専用地域の基盤を維持しながら、産業と区民生活が共存するエリアとして、時代に応じたあり方を検討する必要があります。

主な事業の方向性 ○戦略実行に必要な機能を備えた産業支援施設を整備
すでにある産業支援施設だけではなく「(仮称)産業ミュージアム」等、新たな施設の活用を図りながら、区内外から新たな利用者が集まる産業支援施設を整備します。また、整備した施設を運用しながら機能の見直しを続けます。

○工業専用地域の立地状況の把握とニーズ調査の実施
「板橋区都市づくり推進条例」の施行や規制の変更により、製造業が操業しやすい環境を維持している工業専用地域は、区の貴重な資源です。当該地域の最新状況の把握とニーズ調査を行い、必要とされる機能を検討・整備し、企業誘致などの立地促進を強化します。



板橋区史跡公園(仮称)



ものづくり研究開発連携支援センター

第2章



「板橋区産業振興構想 2035」の 推進体制

- 1 本構想の達成度合いの測定方法
- 2 成果の評価・推進体制

2

「板橋区産業振興構想 2035」の推進体制

真に産業振興につながる板橋区独自の成果指標を設定し、
時代の変化を迅速に反映できる評価・見直しを行います

本構想の達成度合いの
測定方法

将来像を実現する先行事例・好事例の成果の可視化と、重要成果指標（KPI）の設定によって達成状況を測定します。成果指標の設定においては、区の産業振興施策の成果が反映される、目標値の達成が産業の発展につながる、区と事業者が共に目標値の達成に向けて取り組めることを重要視し、板橋区独自の指標を設定します。

成果の評価・推進体制

区の産業全体を俯瞰して、施策・取組のさらなる加速や見直し等ができる評価・推進体制を組成します。評価・推進体制では、成果指標の達成状況に加えて、区内産業の現状と変化する世の潮流を踏まえた施策・取組のあり方を検討し、スピード感をもった事業計画への反映および効果的な事業の実行を促進します。

1 本構想の達成度合いの測定方法

(1) 達成状況の測り方

10年間の長期構想である本構想の将来像を実現するためには、定期的に達成状況を把握し、各施策の見直しを行っていくことが不可欠です。そのため、将来像を実現する事例(まちで起こっている動きや変化そのもの)を成果として発信すると同時に、重要成果指標(以下「KPI」という。)の設定によって達成状況を測定します。

現在の産業振興施策の展開が区内産業の成長に寄与しているかを図るため、KPIは板橋区独自の指標を設定します。なお、独自の指標を用いるため、本構想の策定時には目標値は設定せず、調査結果を踏まえて設定します。区産業振興の実現にあたっては、区と関連団体、事業者が共に取り組んでいきます。



1 取組事例の見える化イメージ



まちづくり社会実験を始動!

共創によるイノベーションと街の中での実証実験をサポート。



新河岸工業会とコラボしたファクトリーツアーを開催!

地元企業と連携した次世代教育プロジェクトとし、まずは新河岸エリアからスタート。



板橋版ウィンメルブックが完成!

区内印刷事業者と連携し、「絵本のまち板橋」プロジェクトを推進。



いたばし産業見本市 テクノロジープレイパークを拡充!

区と連携する東京大学生産技術研究所や宇宙線研究所などのコラボワークショップを実施。

2 KPIの設定

KPIは以下の観点を重視して設定し、設定したKPIと達成状況は定期的に公表します

区の産業振興施策の
成果が反映され
真摯に結果に向き合う
ことが出来る

目標値の達成が
産業の発展に
つながっている
ことが実感できる

区と事業者が共に
目標値の達成に向けて
取組める

2 成果の評価・推進体制

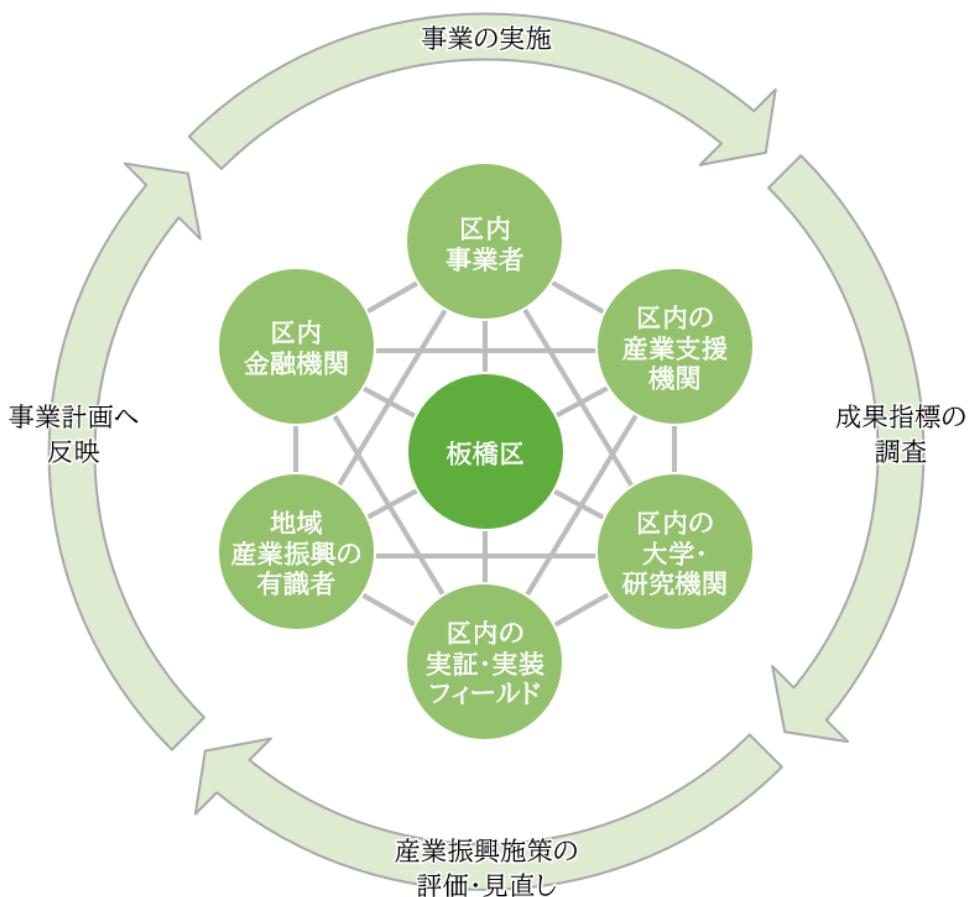
(1) 成果の評価・推進体制

区の産業全体を俯瞰して、戦略・施策のさらなる加速や見直し等ができる評価・推進体制を組成します。評価・推進体制の組成は、取組1「産業振興施策の推進体制の構築」にて取り組みます。

KPIの達成状況に加えて、区内産業の現状と、めまぐるしく変化する社会経済情勢や世の潮流を踏まえて、戦略・施策のあり方を検討します。検討を踏まえて、スピード感をもって事業計画に反映し、柔軟かつ機動的に、より効果的に事業を実行していきます。

なお、各成果指標の調査結果と本構想で見直した内容は定期的に公表し、区内外の事業者・団体・ひとと共に将来像の実現をめざします。

評価・見直しサイクルと評価・推進体制の主な構成員



コラム：検討会・こどもワークショップの様子

検討会を通じて、区内事業者の皆様と意見交換を重ねてきました。また、板橋区の産業の未来に対する子どもたちの想いやアイデアを話し合ってもらいました。区内事業者や次世代の声によって、「板橋区産業振興構想 2035」を策定してきた様子の一部をご紹介します。

(1) 製造・建設業検討会および商業・サービス業等検討会

製造・建設業検討会

■ 開催日

第1回：2024年10月17日(木)

第2回：2024年11月18日(月)

第3回：2025年1月20日(月)

第4回：2025年5月12日(木)

第5回：2025年10月31日(金)

■ 参加者

区内 製造業・建設業・運輸業 等 10社
(詳細は42ページ参照)

商業・サービス業等検討会

■ 開催日

第1回：2024年10月18日(金)

第2回：2024年11月18日(金)

第3回：2025年1月23日(木)

第4回：2025年5月12日(月)

第5回：2025年10月31日(金)

■ 参加者

区内 小売業・サービス業 等 6社
(詳細は42ページ参照)

第5回検討会は板橋ドローンフィールドにて、製造・建設業検討会と商業・サービス業等検討会の合同で実施。ドローンの実演・操作体験も行い、活発な意見交換を行いました



(2) 検討会に参加して



写真左から (敬称略)

- 株式会社ルケオ 代表取締役社長
吉村 健太郎
- ブルーイノベーション株式会社
代表取締役社長 熊田 貴之
- 有限会社山中電気 兼
ハッピーロード大山商店街副理事長
山中 浩司
- 有限会社若松屋酒店
小林 健太

検討会に参加しての所感・印象に残っていること

- これまで区の産業振興構想を知る機会がなかった。区がどのような考えで産業振興へ取り組んでいるかを知ることができ、また、素晴らしい経営者の方との繋がりを持ちながら活発な意見交換ができ大変有意義であった。
- 本構想には、新たな施策を打ち出していこうとする斬新さを感じている。新たな取組を区内に閉じずに対外的な情報発信やブランディングと並行して進めることで、単発の取組ではなくムーブメントを起こしていきたい。
- かつては商店街と大型店舗が対立する時代もあったが、これからは同じ課題を持つ仲間として連携して地域を活性化していこう、という意見交換が出来たことが印象的であった。より共存共栄に向けた取組を進めたい。
- 店舗経営におけるリアルな課題感を赤裸々にお話ししたが、受け入れて頂き、どのようにして地域に人を呼び込むかという共通課題に対して思いを一つに意見交換が出来た。

産業振興構想に対して込めた想い・期待と今後の区の産業振興への関わり方

- 本構想は出来上がって終わりではなく、時代の変化に合わせて磨き上げていくことが重要。地域に根付いた企業として、区内産業の発展に貢献していきたい。
- これからは人への投資がより重要になるため、人が育つ土壌が区内にできると良いと考えている。また、魅力的なコンテンツをブランドとして昇華し、「板橋区」自体がブランドとなることを目指し、自社と区で共に将来像を実現していきたい。
- 区が後押しして、先進技術を活用しながら社会課題の解決を図れば、自然と人が集まるまちへと変わっていく。区から提案される様々な取組に対して積極的に協力していきたい。
- 最新技術を活用し業務の効率化を図ることが、お客様へのサービスの質の向上に繋がり、成果指標の1つとして掲げる「区民生活の質の向上」に直結する。地域産業の活性化につながる幅広い取組へ参画していきたい。

(3) いたばし子どもワークショップ

- 開催日:令和7年7月29日(火)13:30~17:00
- 子ども参加者:小学4年生~高校生の14名
- 区参加者:産業振興課、教育総務課、新しい学校づくり課、地区整備課
- 概要:産業振興課から子どもたちへ区内産業についてのプレゼンテーションを実施後、「板橋区の産業の魅力を知ってもらうためには」をテーマに子どもたちと意見交換および子どもたちから発表を行いました。



子どもたちの意見



板橋区の産業の好きなおところ(一部抜粋)

- 幅広い産業がある
- アプリでイベントの配信・告知を行っている
- 電車内広告を行っている

板橋区の産業の良くしたいところ(一部抜粋)

- 知っている企業が板橋区内にあると分からない
- 情報発信が不足している

板橋区の産業の魅力を知ってもらうために必要なこと

- SNS等を活用し、年齢別にターゲットを定めた情報発信
- 産業見本市の浸透
- 子どもが参加しやすいイベントの開催

子どもたちの声を本構想にも反映しています！

參考資料

1 用語説明 ※50音順で掲載

医工連携

医学・医療分野と工学・技術分野が連携することで、医療技術の革新や医療サービスの向上をめざす取組。この連携は、医療現場のニーズと技術的な解決策を組み合わせることで、新しい医療機器の開発、診断技術の向上、治療方法の革新などを実現することを目的としている。

いたばし産業見本市

商取引の拡大及び企業間の情報交換を通じて、区内企業の活性化を支援するとともに、区内の産業を広く紹介し、区民の地域の産業に対する理解の促進を図ることを目的とした展示会。2026年で第30回を迎える。

板橋のいっぴん

身近な商店・商店街に関心を持ち板橋への愛着を深めて頂くための取組であり、地元で愛されているお惣菜・お菓子・お酒などを区民から募集し、公募委員などによる選定委員会の審査を経て区が認定している。

いたばし Pay

板橋区商店街振興組合連合会・板橋区商店街連合会が運営する、板橋区の未来のためのデジタル地域通貨。板橋区内の消費活動・経済循環を促進させるとともに、行政ポイントの活用やアプリを通じた情報配信などによる、地域住民・事業者間のつながりを推進することをめざしている。

イノベーション

ものや力の新たな結合を意味し、具体的には新たな製品の開発、新たな生産方法の導入、新たな市場の開拓、新たな資源の獲得、組織の改革などが該当する。

イノベーション・エコシステム

大学・研究機関、スタートアップ、事業会社、ベンチャーキャピタル・金融機関が相互につながり、協力関係を保ちながら継続的にイノベーションを創出するネットワーク。

インナーブランディング

一般的に、企業がそのブランド価値や理念、文化を社内の従業員に浸透させるための取組を指すが、本構想においては、区が持つ理念や価値観、めざすべき地域のビジョンを、地域内の住民や企業に向けて浸透させる取組を指す。

絵本のまち板橋

絵本を通じた文化振興、産業振興、観光振興また教育活動などであり、また、それらを分野横断的につなぐ取組。

持続可能な地域の発展に向けて、美術館を起点とするイタリア・ボローニャ市とのつながり、多数の海外絵本を有する中央図書館(いたばしボローニャ絵本館)、印刷・製本産業が多く立地する特徴に着目し、これを区の独自性と位置づけ、「絵本のまち板橋」を区のブランドとして展開、推進している。

(仮称)産業ミュージアム

国史跡に指定された加賀一丁目に位置する「陸軍板橋火薬製造所跡」内にある建造物を活用した施設。

これまで重ねられてきた歴史的価値とともに、板橋区が日本の産業や科学技術の発展に貢献してきた軌跡を学び、ふるさと板橋を愛する心を育み、次世代を担う子どもたちや若者世代が区の産業や科学技術の発展につながる学びを通じて、夢を育む未来志向の創造の場となることをめざして整備を進めている。

カーボンニュートラル

生産や人為的活動で排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じ量であるという概念のこと。

工業専用地域

都市計画法に基づく用途地域の一つで、工業活動を集中的に行うために指定された区域。住宅や商業施設の建設が制限されており、工場や製造施設の設置が中心となる。

産・官・学・金

各者が持つ資源や知識・技術を効果的に活用し新たな価値を創出することを目的として、産業(企業)、官(政府や自治体)、学(大学や研究機関)、金(金融機関)が連携して、地域や社会の課題解決や経済発展をめざす協力体制。

産業ブランド

産業ブランドとは、板橋区産業全体で醸成するブランドを指す。「板橋区はひとつひとつがつながることで産業が成長しているまちである」などの産業全体の魅力や価値をブランドとして確立し、区内産業の認知度向上、新規ビジネスや人材確保の機会獲得に繋がる状態をめざす。

事業承継

経営権を後継者に引き継ぐこと。引き継ぐ先によって親族内承継、従業員承継、社外への承継がある。

スタートアップ

創業間もない、新しい技術やビジネスモデルを有し、急成長をめざす企業。

ソリューションビジネス

顧客が抱える課題やニーズを解決するために、製品を単体で提供するのではなく、エンジニアリングやサービスと組み合わせて包括的な価値を提供するビジネスモデルを指す。例えば製造業においては、機械の販売だけでなく、IoT 技術を活用した予防保全システムやデータ分析サービスを提供する等。

知財

「知的財産」の略であり、発明、考案、植物の新品種、意匠、著作物その他の人間の創造的活動により生み出されるもの。

中堅企業

中小企業を除く、従業員数2,000人以下の企業を指す。規模拡大に伴い経営の高度化や商圏の拡大・事業の多角化といったビジネスの拡大が見られることが特徴。

ドローン

無人航空機の一つであり、一般的に複数のプロペラを持つマルチコプターを指す。

ヘルスケア

健康の維持や増進、病気の予防、診断、治療、リハビリテーションに関わるすべてのサービス、製品、技術、活動を指す。

AI

「Artificial Intelligence(人工知能)」の略であり、人間の思考プロセスと同じような形で動作するコンピュータープログラム、コンピューター上で知的判断を下せるシステム等。

DX

「デジタルトランスフォーメーション」の略であり、新たな価値を創出していくために、デジタル技術やツールを活用してビジネスモデルや企業文化の変革に取り組む。単にデジタル技術やツールを導入することではなく、企業経営の変革そのものを指す。

2 板橋区産業活性化基本条例

平成 17 年 3 月 14 日 東京都板橋区条例第 9 号

(目的)

第1条 この条例は、板橋区における産業の活性化に関する基本的事項を定め、区内産業の持続的な発展を促進することにより、区民生活の向上に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 事業者 区内で産業活動を営む個人及び法人をいう。
- (2) ものづくり産業 製造業及びこれに準じる業種をいう。
- (3) 地域資源 企業、研究機関、人材、自然、文化、歴史等区内にある産業活動に活用可能な資源をいう。
- (4) 経営革新 新製品の開発又は生産、新役務の開発又は提供、新たな経営管理方法の導入その他の新たな事業活動を行うことにより、経営の向上を図ることをいう。

(基本方針)

第3条 産業活性化の基本方針は、次のとおりとする。

- (1) 事業者自らの創意工夫及び自律的な発展を促進すること。
- (2) 生活及び産業が調和したまちづくりを推進すること。
- (3) 地域資源を積極的に活用して新たな価値を創造すること。
- (4) 事業者を中心に、区民及び区が一体となって産業の活性化に努めること。

(板橋区産業振興構想の策定)

第4条 区は、前条の基本方針に基づき、将来における区内産業のあるべき姿を想定した板橋区産業振興構想を策定する。

(区の責務)

第5条 区は、基本方針及び前条の構想に基づき、区内産業振興のための施策を実施するものとする。

2 区は、前項の施策の実施に当たっては、国、東京都その他の地方公共団体との連携並びに産業界、教育機関及び区民との協働に努めるものとする。

(区の産業振興施策)

第6条 区は、前条第1項の規定に基づき、区内産業の持続的な発展を図るため、次に掲げる施策を推進する。

- (1) 創業及び新産業創出を促進する環境を整備すること。
- (2) ものづくり産業における、技能及び技術の向上、継承等ものづくりを継続できる基盤を整備すること。
- (3) 区民の交流の場として、地域コミュニティの中心的な役割を商店街が担うことができるまちづくりを進め、商店街の振興を図ること。
- (4) 観光資源を発掘し、地域における観光に関する情報を広く一般に提供する等観光に関する産

業を活性化させること。

(5) 都市における農業及び農地の持つ多面的な機能を考慮し、都市にふさわしい農業の振興を図ること。

(6) 中小企業の経営基盤の強化及び経営革新の促進を図ること。

(事業者の責務)

第7条 事業者は、区民の良好な生活環境の維持に配慮し、事業の発展及び経営革新に努めるものとする。

2 事業者は、区、産業団体その他関係団体による区内産業振興のための施策に積極的に参加し、協力するよう努めるものとする。

3 商店街において小売店等を営む事業者は、商店街の振興を図るため、商店会への加入等により相互に協力するよう努めるものとする。

4 商店街において小売店等を営む事業者は、商店会が商店街の振興に関する事業を実施するときは、応分の負担等を行うことにより、当該事業に協力するよう努めるものとする。

(区民の理解と協力)

第8条 区民は、産業の発展が、生活の向上及び地域の活性化に寄与することについて理解を深め、区民生活と区内産業との調和の実現に向け、区内産業の発展に協力するよう努めるものとする。

(委任)

第9条 この条例の施行に関し必要な事項は、区長が別に定める。

付 則

この条例は、平成17年4月1日から施行する。

3 板橋区産業活性化推進会議設置要綱

(平成18年6月1日区長決定)

(設置)

第1条 板橋区産業活性化基本条例(平成17年板橋区条例第9号)第4条に基づき策定する板橋区産業振興構想(以下「構想」という。)について、産業界の自律的な活動を基本として、企業、産業団体及び区等が連携して構想の速やかな実現を図るとともに、社会経済状況等の変化に応じた構想のあり方等について助言を得るため、板橋区産業活性化推進会議(以下「推進会議」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 推進会議は、次に掲げる事項を所掌するものとする。

- (1) 構想の策定に向けた指針の検討及び提案に関すること。
- (2) 構想における施策の具現化に関すること。
- (3) 構想の施策の進捗状況に応じた改善策等に関すること。

(構成)

第3条 推進会議は、次の各号に掲げる者のうちから、区長が委嘱又は任命する13名以内の委員で構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 産業関連団体の代表
- (3) 区民公募委員
- (4) 区職員
- (5) その他区長が適当と認めた者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から2年間とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けたときは、その後任者の任期は、前任者の任期の残存期間とする。

3 委員は、辞任又は任期満了の後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行うものとする。

(会長等及び権限)

第5条 推進会議に、会長及び副会長を各1名置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、推進会議の会務を統括する。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、副会長がその職務を代理する。

(会議)

第6条 推進会議は、会長が招集する。

2 会長は、必要に応じて、関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(検討会の設置)

第7条 推進会議は、特定の課題を専門的に調査・検討するために、検討会を設置することができる。

2 検討会は、各々の検討会につき、会長が任命する委員10名以内をもって構成し、委員の任期は、任命の日から2年間とする。

(庶務)

第8条 推進会議及び検討会の庶務は、産業経済部産業振興課が処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか推進会議の運営について必要な事項は、産業経済部長が定める。

付 則

この要綱は、平成18年6月1日から施行する。

付 則

この要綱の一部改正は、平成24年5月31日から施行する。

付 則

この要綱は、平成26年6月24日から施行する。

4 委員名簿

板橋区産業活性化推進会議（第7期）

令和5年3月から2年間

会長	堀田 和彦	東京農業大学 国際食料情報学部 教授
副会長	山田 敏之	大東文化大学 経営学部 経営学科 教授
委員	原田 香奈子	東京大学大学院 医学系研究科疾患生命工学センター 医療材料・機器工学部門 准教授
委員	大島 隆夫	板橋産業連合会 会長
委員	齊藤 得彌	板橋区商店街連合会 会長
委員	岩月 宏昌	東京商工会議所板橋支部 会長
委員	木村 博之	JA 東京あおば 板橋地区青壮年部 部長
委員	大矢根 康隆	巣鴨信用金庫 常務理事
委員	平松 有恒	区民公募委員
委員	百中 さおり	区民公募委員
委員	平岩 俊二	板橋区産業経済部 部長

板橋区産業活性化推進会議（第8期）

令和7年3月から2年間

会長	山田 敏之	大東文化大学 経営学部 経営学科 教授
副会長	原田 香奈子	東京大学大学院 医学系研究科疾患生命工学センター 医療材料・機器工学部門 教授
委員	中西 穂高	帝京大学 先端総合研究機構 社会連携部門 副機構長 産学連携推進センター長
委員	豊城 勇一	板橋産業連合会 会長
委員	岩月 宏昌	東京商工会議所板橋支部 会長
委員	齊藤 得彌	板橋区商店街連合会 会長
委員	大矢根 康隆	巣鴨信用金庫 常務理事
委員	木村 博之	JA 東京あおば板橋地区青壮年部 部長
委員	梶山 祐美子	区民公募委員
委員	岡田 晴一郎	区民公募委員
委員	家田 彩子	板橋区産業経済部 部長

製造・建設業検討会

吉村 健太郎	株式会社ルケオ 代表取締役社長
清水 雄一郎	三興塗料株式会社 代表取締役
梅田 清	株式会社ソラリス 代表取締役（～令和7年4月）
市橋 徹	株式会社ソラリス 代表取締役（令和7年5月～）
岩村 貴成	株式会社オフセット岩村 代表取締役
石田 太平	株式会社太陽油化 代表取締役社長
熊田 貴之	ブルーイノベーション株式会社 代表取締役社長
宮崎 貴法	技研精機株式会社 代表取締役社長
佐々木 譲	日本カーボンマネジメント株式会社 代表取締役社長
佐藤 勝也	明邦運輸株式会社 代表取締役
中尾 美佐男	中尾建設工業株式会社 代表取締役社長
家田 彩子	板橋区産業経済部 部長

商業・サービス業等検討会

盛山 由佳	社会福祉法人ひまわり福祉会 理事長
浅野 裕之	イオンリテール株式会社(イオンスタイル板橋) 店長
鈴木 資久	イオンリテール株式会社(イオンスタイル板橋) ゼネラルマネージャー
小林 健太	有限会社若松屋酒店 代表取締役
山中 浩司	ハッピーロード大山商店街 副理事長（有限会社山中電気）
有田 やもり	コンパス造形教室 主幹
姫野 祐子	株式会社あつぷる 代表取締役
家田 彩子	板橋区産業経済部 部長

農業検討会

両角 正博	東京都 区部農業改良普及センター 所長（～令和7年3月）
小島 彰	東京都 区部農業改良普及センター 所長（令和7年4月～）
相原 宏次	東京都 農業会議 事務局長
久保 秀一	東京あおば農業協同組合 組合長
山口 賢治	板橋区 農業委員会 会長
木内 俊直	板橋区 産業経済部赤塚支所長

5 検討経過

開催日時	会議名称	主な議題
令和6年 7月22日	令和6年度 第1回板橋区産業活性化推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興事業計画2025の進捗報告 ・次期産業振興構想策定方針、スケジュールの報告
10月17日	第1回製造・建設業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・区内産業の動向・課題感に係る意見交換
10月18日	第1回商業・サービス業等検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・区内産業の動向・課題感に係る意見交換
11月18日	第2回製造・建設業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035の施策・各産業の方向性に係る意見交換
11月18日	第2回商業・サービス業等検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035の施策・各産業の方向性に係る意見交換
12月3日	第1回農業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035の区内農業の方向性に係る意見交換
12月16日	令和6年度 第2回板橋区産業活性化推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035策定状況の報告
令和7年 1月20日	第3回製造・建設業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035の業種別の方向性・業種間連携の方向性に係る意見交換
1月23日	第3回商業・サービス業等検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035の業種別の方向性・業種間連携の方向性に係る意見交換
2月7日	第2回農業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035の区内農業の方向性・業種間連携の方向性に係る意見交換
3月10日	令和6年度 第3回板橋区産業活性化推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035骨子案に係る議論 ・板橋区産業振興事業計画2025の進捗状況の報告
5月12日	第4回製造・建設業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035素案に係る意見交換
5月12日	第4回商業・サービス業等検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035素案に係る意見交換
6月11日	令和7年度 第1回板橋区産業活性化推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035素案に係る議論 ・板橋区産業振興事業計画2025の進捗状況の報告
6月27日	第3回農業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035素案に係る意見交換

開催日時	会議名称	主な議題
9月26日	令和7年度 第2回板橋区産業活性化推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035素案と今後の評価・運用およびパブリックコメントに係る議論
10月17日	第5回製造・建設業検討会・第5回商業・サービス業等検討会(合同開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋ドローンフィールドの見学 ・ドローン活用及び業種間連携に係る意見交換 ・板橋区産業振興構想2035原案に係る意見交換
12月15日	令和7年度 第3回板橋区産業活性化推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・板橋区産業振興構想2035原案に係る議論 ・板橋区産業振興事業計画2025の進捗状況の報告



9つのめざす姿
(産業)のシンボル

板橋区基本構想において、区が将来像
「未来をひらく緑と文化のかがやくまち”板橋”」の
実現に向けて掲げた「9つのめざす姿」を
視点ごとに象徴したものです

板橋区産業振興構想 2035

編集 板橋区産業振興課

〒173-0004 板橋区板橋二丁目 65 番 6 号

TEL 03-3579-2172 FAX 03-3579-9756

kb-ssyuro@city.itabashi.tokyo.jp

令和8年3月発行

刊行物番号 R07-164

